

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971300353		
法人名	医療法人社団 富士厚生会		
事業所名	グループホームあんず		
所在地	山梨県南都留郡山中湖村山中1069-3		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに商業施設が出来た事で、食事作りの企画を立てる事が容易となり、入居者様が立てた献立の食材の買い物が出来ることができました。併設された老健施設とともに様々な企画、イベントや独自で立ち上げた企画に入居者様が参加し、生き生きとした生活を送っている。職員研修にも(内部・外部)全員が参加する事により、個々の能力の向上を図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成26年12月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世界遺産となった富士山の麓にある事業所は富士厚生グループの中にある介護老人保健施設・通所リハビリテーション・デイケアと併設されている。デイサービスに来た近所の友達が立ち寄りやすい。保育園児の遊戯やボランティア訪問などの時は併設施設と共に交流を図りながら見学をしている。朝の体操、お掃除、食事作りなど1日の生活リズムがあり利用者が作った大きな日めくりカレンダーが時をきざみ穏やかに生活している様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームあんず

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(あかるく、たのしく、その人らしい生活が送れる)の理念に基づき日々の暮らしの中に楽しみを作れるように支援し、1日3回の申し送りや、月1回以上の職員研修やカンファレンス会議にて理念を共有している。	家庭的な環境の基で「明るく、楽しく、その人らしい生活が送れる」の理念を理解して、入居者の生活支援にあたり、申し送りや職員研修、会議時に理念を取り上げて、職員間で共有している。また、地域密着型のサービスを意識して、地域との関わりに積極的に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年開催される山中湖村民スポーツ大会に参加している。今年も、山中湖の花火大会にも参加し、皆さん楽しまれる。併設される通所の方と交流も図っている。	役場関係の行事「長寿スポーツ大会、花火大会」等にほとんど参加している。特に夜の花火大会に参加した時は利用者の生き生きとした姿が見られた。併設施設の通所の利用者との交流、ボランティア、保育園児のお遊戯を見たり機会あるごとに交流を受け入れを実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法として、毎週1回先生を招き、音楽セラピーを実施しており、歌を歌えない方にも楽しんで頂けるように実施しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。欠席されたご家族等には、面会時などにて報告しています。	2か月に1回運営推進会議を開催している。役場担当者、民生委員、家族、職員等が参加して、事業所の状況報告、情報の伝達、家族の考えを受けて話し合いを行い、有意義な会議になっている。欠席した家族には面会時に報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃より連絡・報告し、連携を取る機会を多くしています。	役場担当者と常時、連絡をとりあい、相談にのってもらい、スムーズに話し合える関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者・施設長(医師)、よりしない事としています。また、内・外部研修より学んだりとケアに取り組んでいます。	職員は研修に出席して身体拘束をしないケアについて学んでいる。利用者が外に出る時は付き添い、気持ちを理解するようにして行動を制限しないようなケアに取り組んでいる。また、併設施設からの見守りの協力がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア・業務にて職員全員にて注意を払い防止に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を持ち、把握し、個々の必要性に応じて活用できるように支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、事前にて説明を十分に行い契約をしています。また、日々の面会時や運営推進会議などでも、不安などを取り除くように話をしております。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、必ず近況の報告をしています。必要時には、連絡を取り、直接的に意見や要望を聞き対応しています。	家族が面会時には入居者の近況や運営推進会議の報告をして要望、意見を聞いている。日常生活の中で歩行を多くしてもらいたいという要望なども職員間で共有し無理なく歩行を増やす対応をしている。また、管理者に電話で要望があるときはすぐに現場職員に伝えて対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・研修時以外でも傾聴する機会を設けています。個々の体調や不安なども傾聴し、対応しています。	管理者は会議、研修等で職員の意見、提案を聞く機会を設けており、アイデア等「室内装飾」に関して取り入れ、反映している。話し易い雰囲気作りにも心がけており、職員の個人的な相談に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、個別面談などを行い、職員の意欲向上に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催される内部研修会に残職員が参加・受講し、個々のスキルアップにつなげています。外部主催の研修会にも出席しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修会に出席しています。他施設の研修・講習会も出席しています。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず面談・見学をして頂き、ご本人・ご家族様より現況などの情報や要望などを得るように努め、安心・納得をして頂き、入居とさせて頂いています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の実情や要望を傾聴し、安心・納得して頂けるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、併設される老健施設の専門職に相談・助言をしていながら、対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の心情を理解し、寄り添って行けるようなかかわりを心がけています。また、趣味や得意分野などを担当して頂き、持ちつ持たれつの関係作りに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、常に近況報告・相談を心がけています。また随時、連絡・報告も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設された老健の通所ご利用の方との交流を図って頂いたりしています。	馴染みの人への年賀状を出すことや電話の取り次ぎの支援をしている。面会者に関しては家族の意向に添った対応をしている。併設施設から遊びに来る友人がいたり親しい関係作りの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、全入居者様が参加できる事を提供したりしています。また日勤者が連携を図り、全員が何工御しているかを把握するように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談や支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方には、全職員にて取り組みながら支援できるように対応しています。また必要な品・物品等は、ご家族に相談・検討して頂き購入して頂いています。	意思疎通が困難な方には全職員で共有しながら取り組んで支援している。昼食時に食事が進まない利用者に故郷の話をしたり、一品ずつ目の前に料理をおき、食材の話をして丁寧に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人・ご家族様より聞き取り調査をしています。馴染みのあるものなどは、使用して頂くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の、申し送りやカンファレンス等にて入居者様の現状を報告し、職員が共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が担当の入居者様のモニタリングをし、ご本人・ご家族様の意見や要望をカンファレンスなどにて検討し、取り入れるようにしています。	各入居者の担当職員がモニタリングをしている。月1回のカンファレンス時に職員からの気づき、状況変化、家族の要望を検討して介護計画を作成している。3か月～6か月毎に見直しをして、入居者の状態変化がある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報などを担当職員が提供しながら見直しをしています。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望があれば医療機関の受診の支援を行っています。また併設施設の専門職に訪問して頂き、出来る範囲内にて支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用・協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が内科専門で有る為、定期的に受診しています。専門外医院の受診も職員が付き添い支援しています。	併設施設の内科医が定期的に診療している。専門科目「眼科、皮膚科」については基本的には家族対応になっているが職員が付き添い受診支援をしている。受診結果はその都度家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々での状態の気づきや情報等を随時伝え、相談し日常での健康管理の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力病院と連携し、安心出来るように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に、ご家族様(キーパーソン)と想定した話をしています。	入居時に家族と本人に事業所の方針を説明して家族の理解を得ている。重度化してきて自力食事摂取困難や医療行為が必要になってきた場合は家族と話し合い、併設施設の利用やその他の選択等のアドバイスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急マニュアルを元に行動するように努めています。併設老健での急変時・事故発生時の対応の研修を受講して対応出来るように学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災業者主催の訓練及び勉強会をしています。避難訓練は、実際に全ご入居様を交えた訓練をしています。	年2回、防災業者主催の夜間想定を含めた避難訓練を実施している。入居者も参加している。マニュアルの掲示、備蓄の確認、連絡網の徹底、避難場所の確認等、様々な防災に関して併設施設と協力して実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が対応しています。また、研修会などで再度確認し合いながら行っています。	プライバシーに関しての基本的な事は研修会等で学習しており、その都度確認して共有している。特にトイレや入浴支援時の言葉かけにはプライバシーを損ねないように対応している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった言葉かけや接し方を全職員にて努め入居者様の素直な表現での要望や自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや主張を大切に、希望に沿った生活が出来るように支援しています。また余暇活動が継続できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重し楽しめるように努め、時には選択して頂きながらの支援を心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材は、老健施設より頂き、簡単な調理のお手伝いや食事準備・片付けなどを一緒に行っています。食事の企画として、好きな献立を調査し、食材を買いに行ったり、調理する行事をしています。	併設施設の栄養士がカロリー計算したメニューと食材が配られ朝食と昼食を作っている。調理(炒め物、味付け)、食事準備、盛り付け、配膳、片付けを入居者が職員と共にやっている。嗜好調査をして近くのスーパーに食材の買い出しに行き、調理をする楽しみ事も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食やし好調査を元に提供しています。毎日、食事量・水分量を確認し、栄養状態等の支援を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧めています。時には、一連の動作の確認をし、指導する支援をしています。義歯は、洗浄・消毒を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、対応しています。時に声かけ・誘導にて気持ちよく排泄できるように支援しています。	排泄表を使用して排泄状況を把握しながら布パンツ使用に向けての自立支援に努めている。排泄が自立している入居者は見守りで自立に向けての声掛け、誘導をさりげなく行い入居者の気持ちに添って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や量・性状等を記録し状態の把握に努めています。水分量の確認・毎日の身体を運動にも心がけて実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回の機会を作り、午前・午後と希望に応じ施行している。必ず1対1の対応と、湯の温度確認を2名にて行う。希望名方には、個人持ちのシャンプーを利用して頂いている。また入浴剤は、施設購入にて、使用しています。	1週間に2回の入浴で午前と午後に分けて入居者の希望に添って入っている。入浴を嫌がる方には声掛けを工夫したり、対応する職員の交代、入浴日を変えたりしている。好みのシャンプーを使用している方もいる。気持ちよく入れるようにひとりずつ対応していて、冬場は脱衣所を暖めて温度差をなくす工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際には、自身の使用された寝具を使用されますように勤めております。日中の活動を増やし、気持ちよく安眠できるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握出来るように薬情を用意し、理解できるようにしています。内服介助のマニュアルを用いて、職員間にてチェックし、誤薬がないように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中で家事作業を積極的に出来る環境を支援し、もしくは、個々にて出来る活動の参加を促し、張り合いが持てるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のご希望にて戸外に出かけられるようにしています。また、こちらからの要望にて、花壇・プランターの水やりを当番制にし、出られています。	夏は樹木に囲まれた涼しいコースを設定して可能な限り自然の中を散歩に出かけている。事業所前の花壇にパンジーやラベンダーの花を植えキュウリやトマトの夏野菜を作り水やりや収穫の喜びを感じるための支援に努めている。またフラワーパークや莓刈りなどのドライブやスーパーへの買い出しの外出支援も多く取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが生じる為、職員にて管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・室温計を使用し、適温に保つように努めています。フロアの壁には、行事写真や季節の飾り付けをしたりしています。冬季には、コタツを出しつるげよう努めています。	共有空間は明るく清潔に保たれている。フロアの一角に畳コーナーがあり、冬は昔ながらのこたつを置いて足を温めながらくつろぐ事が出来る。壁面には月1回の職員指導による習字の作品、行事の写真、季節の切り絵等が飾ってある。入居者同士の会話もあり、無理のない日課に添って静かに、穏やかに暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居間の畳フロアに腰を掛けて頂いたり、冬季にはコタツを用意し、選択出来るように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具も有りますが、出来る限りご本人が使用された物を使用して頂くよう支援しています。自室には、作品や、お花を飾って頂くなどし、心地よく過ごせるように努めています。	ベッド、クローゼット、机が備え付けであり、入居者は大切にしている馴染みの品を持ち込み自分らしい部屋にしている。若くして亡くなったご主人のお位牌やフアンの歌手のポスターや塗り絵、習字の作品を飾り観葉植物を育てたり新聞を定期購読して居心地よく過ごしている様子が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには、なるべく物を置かず、動線を確保するように努めています。トイレも3か所あり状況に応じて対応出来るように支援しています。		